

令和元年度第2回国分寺市地域福祉推進協議会 議事録

日時：令和元年10月24日（木）

午後6時30分～午後8時40分

会場：cocobunjiプラザ リオンホール

出席委員 64名

事務局 地域共生推進課長（近藤），地域共生推進課地域づくり担当係長（井岡）
地域づくり担当係員（米田）

次第

- 1 （仮称）国分寺市自殺対策計画の策定について【資料1】
- 2 国分寺市地域福祉計画実施計画（中期）進捗状況評価（案）平成30年度について【資料2及び資料3】
- 3 グループワーク『地域のつながり合いを考える』【資料6】
- 4 委員自己紹介・取組シートについて
- 5 その他

資料

① 事前配布資料

【資料1】 「（仮称）国分寺市自殺対策計画」策定について及び「（仮称）国分寺市自殺対策計画」策定スケジュール

【資料2】 国分寺市地域福祉計画実施計画（中期）進捗状況評価（案）平成30年度

【資料3】 国分寺市地域福祉計画実施計画（中期）進捗状況評価（案）平成30年度に対する御意見シート

【資料4】 令和元年度第1回国分寺市地域福祉推進協議会議事録

② 当日配布資料

【資料5】 令和元年度第2回国分寺市地域福祉推進協議会参加者名簿（グループ順）

【資料6】 令和元年度第2回国分寺市地域福祉推進協議会グループワークシート

【資料7】 委員自己紹介・取組シート「国分寺市地域福祉計画実施計画（平成30年度～平成32年度）」

開会 午後6時30分

開会あいさつ

原会長より開会の挨拶を行った。

1 （仮称）国分寺市自殺対策計画の策定について【資料1】

健康推進課大谷課長より、国分寺市の自殺対策計画について策定経緯，スケジュール等について説明する。

1. 計画策定の背景

近年、全国での自殺者数は年々減少傾向であるが、依然として毎年2万人を超えており、自殺死亡率も主要先進7か国の中で最も高い状況である。平成28年4月に自殺対策基本法が改正され、誰もが、生きることの包括的支援を受けられるような社会を目指し、全ての市区町村に「自殺対策計画」の策定が義務づけられた。自殺は、その多くが追い込まれた末の死であり、自殺の背景には、精神保健上の問題だけではなく、過労、生活困窮、育児や介護疲れ、いじめや孤立など様々な社会的要因がある。市区町村は、自殺対策計画を策定することで、あらゆる分野の庁内事業に自殺対策を反映させ、地域レベルの実践的な取組をPDCAサイクルを通じて推進することを求められている。

2. 国分寺市の状況

過去3年間の国分寺市の自殺者は、平成28年度20人、29年度7人、30年度14人となっており、自殺死亡率については、全国平均及び東京都平均と比較して低い数値となっている。

3. 「（仮称）国分寺市自殺対策計画」について

国分寺市でも、自殺対策を総合的に推進する指針として自殺対策計画を策定する。各市町村が策定する「自殺対策計画」は、単独の計画ではなく地域福祉計画等の計画一部として策定することも可能とされており、「（仮称）国分寺市自殺対策計画」についても、地域福祉計画の一部として策定したいと考えている。策定は、令和元年度から令和2年度の2か年で行う。計画期間は令和3年度から令和6年度までの4年間とし、地域福祉計画の計画期間と合わせる。

4. 国分寺市こころの健康に関するアンケート調査について

計画策定にあたり、より実効性のある計画とするため、自殺対策に関する認識等の調査を今月初旬に発送している。対象は、無作為抽出された3,000人の市民。悩みやストレス、自殺に関する意識などを調査項目としている。続いて、裏面は計画策定のスケジュールとなる。今年度は、アンケート調査、事業棚卸等を行い、来年度計画策定を行いたいと考える。計画策定の途中経過等については、随時、この協議会に報告する。

2 国分寺市地域福祉計画実施計画（中期）進捗状況評価（案）平成30年度について

事務局（米田地域づくり担当職員）より、「国分寺市地域福祉計画実施計画（中期）進捗状況評価（案）平成30年度について」説明。各グループにおいて、評価票に対する意見交換を行いながら、資料3御意見シートに記入した。

3 グループワーク『地域のつながり合いを考える』

事務局（米田地域づくり担当職員）より、グループワークテーマ『地域のつながり合いを考える』について説明。「地域のつながりが希薄化している」「地域活動に携わる人材を発掘する必要がある」を課題として抽出し、つながり合う活動に取り組む人を増やすための取組について意見交換をする。グループワークの前に、朝倉さく委員及び田中久美子委員より、つながり合う地域での取組を紹介した。

朝倉委員：地域で高齢者の昼食会と交流会である「たんぼぼの会」の活動を20年ほど行ってきた。活動を始めた当初は70歳代から80歳代の方が大勢集まって交流を持ち、他界された方をお見送りしながらも楽しく続けている。現在70歳代となった活動仲間でも女子会を立ち上げ、月に1回楽しい会を継続している。また近隣に住む男性グループは、10年ほど地域で気軽な食事会を行い、ゆるやかなつながり合いが取り組まれている。地域づくりの必要性を強く感じるのは、雪が降った翌日の雪かきのときである。日常的にコミュニケーションのある通りは早朝から雪かきを行う一方で、雪かきができない通りもある。こうしたところで、地域でのつながり合いの必要性を感じる。

田中委員：「たまりばの会」をつい先日起ち上げた。地域で顔が見える関係をつくるためには居場所づくりが絶対必要であると、皆さん共通で思っていると思う。諸事情により放課後を寂しく過ごす子どもたちがいる、との思いを持っていたところ、2年間無償の貸しスペースが見つかり、子どもも大人も自由に使えるたまり場として始めた。子どもたちや子育て世代の大人など、誰でもふらっと集うたまり場の取組を通じ、地域での見守りにつなげていきたいと思う。昔の井戸端会議のように、近所の見知った大人がいて、居心地のよい場所を提供できたらと考えている。たまり場を周知するため、夏休みに工作教室を開催し、11月も行う。2年の間にたまり場の良さを一人でも多くの方に感じてもらい、市内全域にこうした場所を広めていきたい。是非皆さんのお力をお貸りしたい。

事務局（米田地域づくり担当職員）より、グループワークの方法について説明。

原会長：グループワークの時間は50分間、20時15分までとする。

各グループからの感想・意見

- ・ 地域でつながり合う取組として、施設で地域に向けた体操教室の開催や、自治会が地域センターにてお祭りや防災訓練を行っている。成年後見の活動団体は、12月に2回、本庁舎とひかりプラザで出前セミナーを開催予定である。障害者団体ではクリスマス会などのイベントで交流の場を設けている。定期的に地域の方々とは体操を行っているグループや男性らのサロン、介護者の交流会等を行っている。
- ・ 市の介護予防講座を受講したきっかけは、介護者が介護しやすいサービス利用の仕方を知るため、との意見を受け、地域の学習テーマにしたいとの声が上がった。
- ・ 活動参加者を増やすため、アイデアとしてインスタグラムやSNSの活用があるが、高齢者には活用が難しい場合もある。年代を問わず多くの方が興味を持つ内容として、防災をテーマとした集まりやお祭りなどがある。
- ・ 子ども向けの取組は保護者の参加が見込まれるため、自治会などが取り組むことで自治会加入等のきっかけになるとよい。
- ・ 地域の人が集まり、つながり合う取組として、月一回のお茶会や農家での地域交流等の活動、子ども食堂の開催、自治会の老人会や定期的な交流の場を開催する取組などについて情報交換ができた。
- ・ 地域活動に取り組む人を増やすには、活動内容を知ってもらうことが大切であり、活動の継続には共通する思いが必要である。活動をサポートする後方支援も必要であるとの意見がでた。個々の団体の活動が素晴らしく、情報の共有はとても勉強になったが、個々の団体同士横のつながりがないとの意見もあり、この協議会の場を借りて団体同士がつながり、今後一層地域活動が発展していくとよい。

- 地域の活動団体が、近隣児童館や公民館などと連携した実行委員会を運営し、お祭りを開催している。お祭りを通して、関係団体相互のつながりが深まっている。
- 拠点施設がある団体の休業日である土日は、施設の部分開放が可能といった情報がある。近隣小学生が放課後などに施設へ気軽に立ち寄りやすい取組を行い、登下校時に団体スタッフと挨拶し合う関係づくりが進んだ。空きスペースや空き家などについて、有効活用できるシステムを是非行政側でつくってほしい。
- この協議会に参加していない地域の方々をつなげる取組が今後の課題である。
- 児童館でカップ麺を食べている子どもを見かけたが、食育をテーマにしたイベントなどがあるとよい。近隣自治会で相互に連携する意識が進み、活動の交流範囲が広がり始めた。
- 防災行事で非常食を配布するなどの活動も、つながりのきっかけづくりとして大切な取組である。自宅でサロンを13年間行ってきたが、個人会場のため広がりが少ない。公共施設などで親子の世代間交流や子ども食堂などもできるとよい。絆や居場所づくりが重要であるが、更に積極的な取組を考えていきたい。
- 事業所や法人団体は、活動内容を周知するためイベント等に取り組んでおり、つながりづくりとしてのイメージは小さい。また自治会や老人会には中に複数のグループなどがあり、全体で集まり大きな団体となっている。
- 取組を継続するため、マンションや団地の集会所を会場にしたり、通いが不可能となった方の自宅で開催するなど工夫している。体操プログラムに食事時間をプラスするなど、楽しい活動に取り組んでいる。
- 取り組む人が増えるようなきっかけづくりや興味を引くヒントなどのアイデアを、協議会で得たい。活動には場所と資金が必要である。市には、公共施設を継続して予約できない状況を把握し、企業等から協力を得る工夫や、空き家・空き部屋を利用できる仕組みづくりをしてもらいたい。ボランティアセンターではいろいろな財団や事業所からの助成金の情報を持っており、ホームページでも紹介している。
- 男性が地域になかなか出てこない状況が問題だと感じる。地域包括支援センターこいがくぼでは、サロン「男の井戸端会議」を2か月に1回恋ヶ窪公民館で、直近では11月27日水曜日午後1時30分から3時30分まで開催する。ざっくばらんに男性同士で話がしたいという人が集まっている。継続して行うことが大事である。
- 地域包括支援センターには担当エリアがあるが、住民の皆さんにはそうした意識がないため、横のつながりがある他のセンター同士情報共有をしっかりとってもらいたい。情報を共有しあい、つながりを持って活動を広めることがとても大切である。自治会の協力を得ることもとても大事であるが、お願いするのではなく、協力を得られるような声掛けが大切だというアドバイスを共有した。
- 活動に参加するきっかけづくり、開催場所や継続することがとても大事である。
- つながり合う地域は災害にも強い。要支援者の登録に関しても行政機関は名簿を持って対応することとなっているが、地域を守るには自治会や地元の力が大きい。行政から地域へ協力連携を求め、しっかりとした仕組みづくりが大事である。

- ・ 地域福祉コーディネーターより、「支えあう地域づくり学習会」の案内
「気づく・つなぐ・つくる」をキーワードに、国分寺市と地域福祉コーディネーターにて学習会を開催する。住民が互いに支えあう地域づくりが求められている中、地域づくりとは何か、本当に必要なのか、何をすればいいのか、といった疑問や不安がある。地域づくりの必要性やつながりづくりの良さなど、地域づくりの基本を学ぶ。西地区は10月26日土曜日午後2時から4時まで、会場は国分寺市役所書庫等会議室にて、東地区は11月7日木曜日午後7時から9時まで、会場はリオンホールAホールにて開催する。事前申し込み等は不要である。

4 委員自己紹介・取組シートについて

事務局（井岡地域づくり担当係長）：資料7「取組シート」で、シート下段、今年度の取組を今年度末見込みで振り返り、「できたこと」「今後取り組みたいこと」を記入の上、令和2年1月14日 火曜日までにFAX又は郵送等で提出いただきたい。なお、連絡先としてメールアドレスをいただいている方には、メールでの回答方法について今月中に連絡する。

5 その他・閉会

事務局（井岡地域づくり担当係長）：事務連絡が三点ある。一点目、次回開催日程については令和2年2月19日 水曜日 午後6時30分より、場所は本日同様cocobunjiプラザリオンホールにて開催する。二点目、資料3「計画評価票への御意見シート」及び資料6「グループワークシート」は机上にそのまま置いてほしい。事務局にて回収する。三点目、入口付近には本日参加いただいた各委員からイベント等の案内資料を多数いただいている。お帰りの際には、ぜひお持ち帰りいただきたい。

原会長：以上をもって、本日の協議会は終了する。

閉会 午後8時40分